

蔵出しした仙櫻をかかげる壺阪社長(左)



「仙櫻」坑道内でまるやかに熟成

5月に明延鉱山探検坑道内の「明寿蔵」に蔵入れした純米吟醸酒「仙櫻」が10月7日、関係者によって蔵出しされました。

仙櫻は、市が山陽盃酒造（宍粟市、壺阪興一郎社長）の協力を得て、大屋地域で有機栽培された酒米「兵庫北錦」と氷ノ山から湧き出る水「ぶなのしずく」を使って醸造している純米吟醸酒。酒造りに重要とされる気温が平均12〜15度に保たれる坑道内で、半年間熟成させています。

同日行われた蔵開き式には、関係者約30人が参加。テープカットの後、半年間の熟成を終えた「仙櫻」を味わいました。壺阪社長は「今夏は猛暑でしたが、坑道内は気温が一定に保たれているので安定して熟成させることができました。例年よりもまるやかな味わいに仕上がってくれました」と話しました。

農村歌舞伎「葛畑座」総務大臣賞を受賞

このたび、創意工夫をもって過疎地域の活性化に取り組み、先進的な事例としてふさわしい団体に贈られる「過疎地域自立活性化優良事例表彰」の総務大臣賞を農村歌舞伎「葛畑座」（西村武座長）が受賞しました。

葛畑座は、葛畑区内にある国指定重要有形民俗文化財「葛畑の舞台（芝居堂）」を活用し、平成15年に37年ぶりとなる農村歌舞伎を公演。平成18年には兵庫県立芸術文化センターでの単独公演を果たしたほか、子ども歌舞伎への支援を通じて次世代への継承活動にも積極的に取り組んでいます。

今回の受賞にあたっては、葛畑座の活動が地域文化の振興に大きく寄与することも、周辺地域と連携して集落の活性化を図っている事例として高く評価されました。



平成15年の農村歌舞伎「葛畑座」復活公演

土江稲次郎さんが「旭日双光章」を受章



受章した土江稲次郎さん(右から2人目)

今回、旭日双光章を受章された土江稲次郎さん（88歳、上野）は、昭和47年の養父町議会議員選挙で初当選されて以来、平成8年まで6期24年にわたり在職。その間、議長や監査委員など要職を歴任され、議会議員として町政の発展に寄与されました。

土江さんは「多くの皆さんのおかげです。本当に感謝しています」と受章を喜ばれています。在職中は、特に農林業や畜産業の振興に力を注いだほか、中学校の統合や簡易水道施設の広域化、企業誘致などにも取り組まれました。